

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 The Power of ICT	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	-------------	---------------------	------------------	------------------	--------------------	----------	------

事業所における温室効果ガス(GHG)排出量の削減・エネルギー効率の改善  
 環境配慮データセンターの推進  
 物流・輸送時のCO<sub>2</sub>排出量削減  
 お取引先のCO<sub>2</sub>排出量削減の推進  
 再生可能エネルギー利用量の拡大  
 水資源の有効利用  
 化学物質排出量の抑制  
 廃棄物排出量の抑制  
 製品のリサイクル

## 製品のリサイクル

### 富士通グループのアプローチ

富士通グループのリサイクル活動は、製品の設計・製造段階だけでなく廃棄やリサイクルの段階まで生産者が責任を負うという「拡大生産者責任(EPR)」の考え方、および自社の製品に対して責任を負う「個別生産者責任(IPR)」の考え方に則っています。富士通グループにとって、IPRはビジネスを全世界に拡大するうえでの大きな挑戦ですが、EPRも含めてこれらへの対応を業界団体や各国政府と連携しながら進めることによって、すべての利害関係者の要件や要請を満たした資源循環型の社会づくりに貢献できると考えています。

この認識の下、富士通グループは、各国の廃棄物処理やリサイクルの法規制に沿ったリサイクル活動を推進しています。日本では「資源有効利用促進法」に基づき、産業廃棄物広域認定制度の認定業者である富士通が、国内各地の富士通リサイクルセンターで産業廃棄物の適正処理を受託しています。さらに、回収が義務付けられていない国でもIPRの考えに沿って、可能な限りの回収、再利用、リサイクルを進めています。

### 2013年度の実績・成果

#### 世界各国でICT製品のリサイクルを推進

富士通グループは日本、EMEA(ヨーロッパ、中東、アフリカ)・米州(アメリカ、カナダ、ブラジル)・アジア(シンガポール、フィリピン、オーストラリア、香港、台湾、韓国)で製品リサイクルを実施しています。

日本においては、全国をカバーするリサイクルシステムを構築。徹底したトレーサビリティとセキュリティを確保しながら、高い資源再利用率を達成するなど、安心・安全なサービスの提供を通じて、拡大生産者責任(EPR)を確実に実践しています。海外拠点においても現地のリサイクルパートナー企業と提携し、ICT製品のリサイクルを推進しています。

#### 資源再利用率90%以上を達成

法人のお客様から回収したICT製品(事業系使用済みICT製品)の処理量は5,035トン、資源再利用率91.3%でした。また、個人のお客様の使用済みPCの回収台数は98,549台でした。

### 事業系使用済みICT製品の資源再利用率の推移

年度	2010	2011	2012	2013
資源再利用率(注)(%)	90.6	90.9	91.5	91.3
処理量(トン)	6,406	5,487	5,297	5,035

(注)資源再利用率:使用済み製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率。

### 個人のお客様の使用済みICT製品の回収台数の推移

年度	2010	2011	2012	2013
使用済みPC回収台数(台)	74,231	83,358	85,381	98,549

### 2014年度の目標・計画

#### 継続目標の達成を目指す

引き続き、富士通リサイクルセンターにおける事業系ICT製品の資源再利用率90%以上を維持するという目標達成に向けて、国内外で取り組みを進めます。

### 2013年度の実績サマリー

第7期環境行動計画の目標 (2015年度末まで)	富士通リサイクルセンターにおける事業系ICT製品の資源再利用率 <b>90%</b> 以上を継続する。
2013年度実績	富士通リサイクルセンターにおける事業系ICT製品の資源再利用率 <b>92.7%</b> 達成 [国内 91.3% 海外 95.3%]

### 富士通の統一リサイクル工程

